

いちよう

上小地区賛助会
会報 147号

令和6年3月15日 発行

(公財) 長野県長寿社会開発センター上小支部

賛助会グループ活動紹介

ハーモニー山びこ

シニア大学で初めてハーモニカを手にした私たちが、卒業して結成したグループも8年が過ぎました。

「いちよう」への掲載も今回で3回目となります。メンバーは一部の交代はありましたが、当初と同じ7名で活動しています。毎月2回の練習と年2回の発表会を継続していますが、中々思い通りの演奏はできません。ただ発表会までの準備期間が少し短くなった事で、少しは上達しているのかな?とも思っています。

マンネリ化しがちの中で何か刺激が欲しいなと思っていた所に、一昨年の秋、賛助会事務局の勝又さんからニッセイ財団の「生き生きシニア活動顕彰」を紹介していただきました。顕彰金の魅力もあり、つい応募する気になりましたが、ボランティア演奏実績も少なく、新型コロナ以降一切活動を中止している中で随分無謀な事でした。それでも今までの活動を記録に残したいとの思いから、数少ない資料をかき集めて応募したところ、昨年4月に決定の通知を受け、7月の贈呈式に出席できました。知識も技術も無いゼロからスタートした私達が受賞できたのは、チームワークと周囲の皆様のご指導、ご支援のおかげと感謝しています。これを一つの節目とし、これからも皆で楽しくハーモニカを続けて行ければと思っています。



練習風景



食事会



信州上田ハーモニカフェスティバル



昨年初めて、「信州上田ハーモニカフェスティバル」に出場させていただきました。これは私達を指導して下さる滝澤先生が中心となり、20年程前に立ち上げその後毎年当地で開催しているもので、地方に居て一流の演奏家に接する事ができる素晴らしい機会です。多くの方に会場でプロの生演奏によるハーモニカの魅力を実感していただきたいと思います。興味のある方は是非私達までご連絡下さい。

(グループ長 田中富男)

元気でいきいき作品展開催

長野県長寿社会開発センター上小地区賛助会の「元気でいきいき作品展」がアリオ上田様のご厚意により、星のコートに於いて1月30日(火)～2月1日(金)の3日間に渡り開催されました。昨年は雪やコロナの影響もあり、来場者数が500名ほどでしたが、今年は開催期間が一日短かったにもかかわらず、約650名の方にご来場いただきました。「この作品は販売していませんか？購入したいくらいです！」と作品の出来栄に感動されている来場者の方もいらっしゃいました。出品されたグループ、パネルの搬入、前日準備等ご協力をいただきました方々に感謝申し上げます。日頃の努力の成果が実を結んだ、素晴らしい作品展でした。



88 チャレンジ



たのしい和紙絵



木彫ふきのとう



春陽会



川柳「柳歩」



上小薬草クラブ

公開講座

3月1日(金)上小地区賛助会 第4回グループ長会兼第9回幹事会終了後、公益社団法人上田地域シルバー人材センター 事務局長・専務理事 石井 淳 様にご講演をいただきました。

「演 題」

◎ アクティブシニアのライフワーク



「講演内容」

上田地域シルバー人材センターは、昭和 63 年に上田市シルバー人材センターとして会員数 163 名で発足。その後、広域化を図りながら『上田地域シルバー人材センター』と名称を替え、現在は上田市・東御市・長和町・青木村の 2 市 1 町 1 村により組織されています。平成 23 年 4 月 1 日に公益法人に認定

戦後国の失業対策事業として失業者の救済が行われたが、その際に高齢者が置き去りになってしまった経緯がある。当時 55 歳定年だったが、退職後も働きたいという高齢者が多くいたため「シルバー人材センター」はその受け皿となっていた。

現在の登録者の目的は金銭面の他に、健康面や人とのつながりといった当初の目的とは違ったものに変化しているが、センターは高齢化社会での大きな役割を担っている。

また、社会の IT 化に伴う登録者への教育や健康面でのフォローなど細やかなサポートと共に地域に愛されるシルバー人材センターを目指し活動を続けている。



以上の講座の内容のように、シルバー人材センターは {人生 100 年時代} のまさに第 2 第 3 の人生への入り口といったところでしょうか。

当日の講演会は賛助会員とシニア大生が講聴していましたが、みなさん熱心に聞き入っている姿が印象的でした。これからの人生のちょっとしたヒントになれば良いですね。

コーヒブレイク



だいぶ前になりますが、新聞に面白い落語が載っていましたのでご紹介します。
(記憶が曖昧なので、間違いがありましたらご容赦ください)



武家屋敷の庭に隣の家の竹が伸びてきて竹の子が頭を出していました。黙って食べるのは気が引けますので隣の家に使者を差し向け「お宅の“竹の子”様が無断で我が家に踏み込んできました、無礼千万ゆえ手討ちにしました。」と言ってくるように指示しました。すると隣もなかなか「お手討ちはごもつとも、しかし大切に育てたものなので亡きがらはお渡しください。」との事、そこで再び使者を出し「手遅れです、すでに腹の中に納まってしまいました、これは形見のお召し物です」と言って皮を返しました。



日常会話の中で、こんなとんちの効いたやりとりが出来れば良いですね。

編集後記

令和5年度の卒業式が2月7日に挙行されました。入学時からコロナ禍にあり、在学中は休講や黙食など制限のある中で学生生活を送られました。そして、卒業と同時に嬉しいお知らせは、12名全員が賛助会への入会・賛助会グループの立ち上げをされました。シニア大の歴史の中でも12名という非常に少ない人数でしたが、とても固い絆で結ばれた方々です。

この嬉しいニュースをきっかけに、上小地区賛助会が益々盛り上がっていくことを期待しています。

来年度も力を合わせて頑張っていきましょう！

事務局